

ラグビー人気 復活へトライ

競技人口の減少深刻

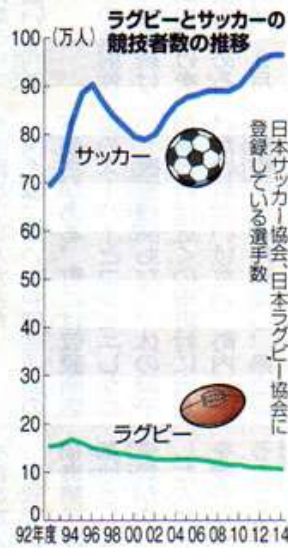
W杯効果に期待

イングランドで開催中のラグビー・ワールドカップ(W杯)。1次リーグ初戦で強豪・南アフリカを破った日本代表は3日午後10時半にサモアとの第3戦を迎える。注目が集まる一方、実は国内の競技人口は減り続けている。日本で開催される次回W杯まで、あと4年。追い風に乗って、ラグビー人気が復活することを関係者は期待する。

大阪府八尾市で9月27日、高校ラグビーの聖地「花園」への出場をかけた全国高校ラグビー大会府予選の試合が行われていた。片方の選手のユニホームには校名がない。チーム名は「合同A」。部員不足に悩む府北部の9校が6月に結成した混成チームだ。履正社高校(豊中市)の部員は1人。熊沢亮哉君



ボールを抱えて走る合同A(黒いユニホーム)の選手ら=9月27日、大阪府八尾市の八尾高校グラウンド



日本ラグビー協会によると、競技人口のピークは94年度の約16万7千人。この10年前には伏見工業高校(京都市伏見区)ラグビー部をモデルにした人気ドラマ

「やれば楽しい」PR

日本代表の堀江翔太選手

と期待する。

前身の大会も含め全国高校ラグビー大会で最多18回の優勝を誇る大阪でも、競技人口減少は深刻だ。1990年は172チームが予選に参加したが、今年はその半分、54。合同チームは13に及ぶ。熊沢君は「つらかったが、どんな環境でもラグビーを続けたかった。悔いはない」と振り返る。

(3年)は平日は筋力トレーニングや走り込みを続け、25人がそろそろ週末に試合形式の練習をしてこの日に臨んだ。試合は0対7で敗れた。熊沢君は「つらかったが、どんな環境でもラグビーを続けたかった。悔いはない」と振り返る。そんな中、一躍メディアで取り上げられるようになった日本代表。五郎丸歩選手(29)がキック前に祈るように手を合わせるポーズをまねる生徒も現れた。坂井教諭は「代表が好結果を出し続ければブームも続く」と期待する。

(29)らを輩出した府立島本高校(島本町)も、8年前から合同チームで出場。顧問の坂井雄亮教諭(31)は勧誘のチラシを配ったり、体育の授業でタックルのないタッチラグビーを採り入れたりしたが、「何をしたら増えるのか。まったく思いつかない」。